

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。	
1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力	2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
3 心身ともに健康であり続ける力	

2 中期的目標

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成 (1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ ア 遅刻指導と身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図るとともに、遅刻総数を減らして基本的生活習慣を確立させる。 イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図ることで、規範意識をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断「あなたは毎朝遅刻をしないように意識をしていますか」の肯定率をR8年度は90%以上を維持する。 (R3：95.3%、R4：93.9%、R5：91.7%) (2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ ア 学校行事・HR活動を通して生徒の自己肯定感を高める。また、生徒会執行部の主体的な活動を支援することによって、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるようにする。 イ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め尊重していくことのできる精神をはぐくむ。 生徒向け学校教育自己診断「学校では人権に関して学ぶ機会があると思いますか」の肯定率をR8年度は90%以上をめざす。(R3：80.3%、R4：88.8%、R5：87.1%) (3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。 ア 「進路のてびき」を作成し系統的な進路指導を継続するとともに、1年生から3年生まで各学年に応じた計画的進学講習を実施することで生徒の進路実現を図る。 保護者向け学校教育自己診断「学校のカリキュラムは、子どもの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっている」の肯定率をR8年度は90%以上をめざす。 (R3：87.4%、R4：82.8%、R5：89.3%)	
2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成 (1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す ア 相互授業見学の活用、公開授業や研究授業の実施、授業アンケートの分析、ICTの活用促進等のさらなる授業改善に組織的に取り組むことによって授業力の向上を図る。 イ 進路多様校として3年間を通した進路指導において、進学クラスの設定および看護、保育プログラムの開設や高大連携など充実したキャリア教育を実践する。 生徒向け学校教育自己診断「学校のカリキュラムは進路希望に応じてコースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか」の肯定率をR8年度は90%以上を維持する。(R3：87.7%、R4：94.6%、R5：94.7%) (2) 生徒の力を育成する様々な取組みの充実 ア 教育課程や総合的な探究の時間の活動実施を視野に入れて取組みを実施することで、「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、「思考力・判断力・表現力」等を育成する。 イ 進学クラスに対し、学力向上に向けた取組みを組織的に実施することによって、難関・人気大学へ合格する力を育成する。	
3 心身ともに健康であり続ける力の育成 ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。また、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用等を通じて、支援が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。 生徒向け学校教育自己診断「学校に悩みを相談できる場があると感じていますか」の肯定率をR8年度は80%以上をめざす。(R3：70.8%、R4：71.8%、R5：79.4%) イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。 ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。	
4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組み、保護者ならびに地域との連携の強化 (1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを定着させ、学校運営の機動性を高める。また、一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。 ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、分掌間、学年間で情報や目標を共有し、一体的となって取組みを充実させる。 イ 校内研修やミニ研修を年間を通して実施し、学びをとめず自身の研鑽とよりよい学校を創ることのできる集団をめざす。 (2) 校務の効率化に努めるとともに、全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。 校務運営の効率化のため、会議資料のペーパーレス化、職員間の予定共有、各種電子化など引き続いて取り組んでいく。 (3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。 ア 学校行事や登下校指導の機会等を利用して保護者や地域住民との連携を強化し、引き続き開かれた学校づくりをめざす。 イ 効果的な広報活動（学校説明会、中高連絡会、出前授業、パンフレット作成、ホームページ・メールマガジン・SNS等の発信）を引き続き実施する。 保護者向け学校教育自己診断「学校からの情報や連絡は、配付物やホームページ、メールマガジン等を通して把握している」の肯定率をR8年度は85%以上をめざす。 (R3：82.4%、R4：88.4%、R5：83.6%)	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
◆ 学校生活 学校に行くことが楽しいという肯定的な回答が80%を上回っている。学校が居心地のいい場所、自身の居場所としてとらえており、今年度も肯定的な回答が増えた。 ◆ 生徒指導 遅刻指導については、生徒、保護者とも肯定的意見が90%を上回っている。頭髪指導についても80%を超える保護者からの理解を得られている。 ◆ 生徒会活動 学校行事の肯定的回答は90%であり、満足感を得られている。 ◆ クラブ活動 部活動ブログの更新は50回を超えており、活発に発信している。部活動の肯定的回答は70%を超えている。 ◆ 互いを認め合える集団づくり 人権について（在日外国人、障がい者理解、同和問題、ジェンダー等）80%を超える生徒が肯定的回答をしており、重要性を理解できている。 いじめアンケートは、年3回実施し、事後の聞き取りを丁寧に行っていることが80%を超える生徒から信頼を得られている1つの要因と考えられる。 今年度は人権HRで福祉体験を実施した。生徒の満足感も高く、今後も継続して実施していきたい。	◆ 第1回：6月28日 ・協議① 令和6年度 学校経営計画及び学校評価について → 全会一致で承認 ・協議② 令和6年度 使用教科書の説明および閲覧 【委員より】広報活動について、塾なども含めて、具体的には何をしているのか。 【回答】塾が開催している説明会に参加している。昨年度から塾にも訪問する機会をもうけている。中学生が塾の先生からの意見を進路選択に活かしているケースも多い。 【委員より】説明会で校内散策を生徒が案内するのはとても効果的。 【回答】本校の生徒の成長にもつながっている。やりがいを感じる生徒も多にいる。 【委員より】今年、小学校6年生が私学にいく割合もとても増えている。入学者数の読みが難しくなっており、公立中学校でも、私学無償化の影響を感じている。学校の努力が必要だと感じている。 【回答】その通りだと思っている。今後とも広報ふくめ教育活動を充実させたい。 【委員より】教員間の相互授業見学週間を年2回という目標にしていることについて。 【回答】授業見学週間をもうけ、教科横断的に見学し、授業改善に努めていこうとしている。全体にアナウンスして相互授業見学の習慣が定着できればと思う。また、初任者や10年経験者研修の先生方との座談会も計画している。そのような文化を作っていきたい。 【委員より】中学校のように、保護者が来るオープンスクール（授業参観）はあるのか 【回答】以前は土曜の午後になっていたが今はやっていない。中学生向けにしてみたいと思っ

府立吹田高等学校

◆ 授業改善 授業相互週間の年2回の設定および授業アンケートの振り返りを実施した。教職員の授業改善に関する肯定的回答は76%であり、次年度はさらに授業力の向上に努める。 ◆ 進路指導 進路についての生徒の肯定的回答は97%となっており、満足度は高い。生徒への情報提供・進路HRに関しては、肯定的回答が92%であり、生徒の進路決定に役立っている。また、保護者への情報提供も引き続き行う。進学講習だけでなく、定期考査前の講習・補習の実施が今後の課題である。 ◆ 教育相談・支援教育の充実 教育相談・支援教育について、生徒が気軽に相談できると肯定的回答は79%であり、体制ができています。「みかんルーム（教育相談室）」では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが定期的に来校し、個別相談やケース会議を継続して実施している。 ◆ 校内美化 通常清掃、清掃徹底週間、施設設備の安全点検、生徒保健委員による学校環境美化啓発活動（清掃点検、ポスター掲示など）は引き続き行っていく。 生徒の清掃に対する肯定的回答は73%であるが、「古いけれど、手入れの行き届いた清潔な学校」をめざしていく。	ている。 【委員より】進路について。1年時は進路の判断が難しい時期。本人の適性を測る機会等はあるのか 【回答】思考の仕方を見るようなペーパーテストをしている。1・2年は年間2回は外部の方による説明会や、外部での活動を取り入れている。本校のパンフレットにも説明が載っている。説明会などでは中学生向けに「いま進路決まっていますか」と聞くことがある。「就職や進学と決まっていなければ、本校がおすすめです」と多様な進路に対応しているという売りにしており、各説明会やイベントでもそれらを強調していく。 ◆ 第2回：11月15日 ・協議① 令和6年度 第1回授業アンケートについて ・協議② 令和6年度 学校教育自己診断について ・協議③ 令和6年度 吹田高校 広報関連事業について 【委員より】授業の中で工夫しているところはどのようなところか。 【回答】二人体制で実施している授業もある。理科等では実験のときこそ厳しく事故の無いように意識し、座学等のときは生徒を褒めること、生徒に寄り添う授業を意識している。初任の先生方にも授業が一番大切であるということを伝えている。 【委員より】ホームページの校長だよりがとてもわかりやすい。大変ですが続けていってください。 【委員より】広報活動によって吹田高校に興味をもって生徒が集まってきているのではないか。中学校への出前授業などを多くできればよいのではないか。このような広報活動はとても価値があることなので、今後も続けてほしい。 【回答】近隣の中学校で、進路の授業や高校の授業体験をしてもらうことを実施した。第1回の学校説明会では、吹田高校の授業を体験してもらう機会も設けている。学力で仕方なく吹田高校を選ぶという生徒を減らし、吹田高校だから行きたいという生徒を増やしたい。 【委員より】近年の中退率はどうか。 【回答】昨年度3月に卒業した生徒は、30人強くらいの転退学があった。 【委員より】転退学を考えている生徒にはどのような指導をしているのか。 【回答】担任の先生を始め、学年主任や教科担当、SCやSSW等も連携して寄り添った指導を実施している。授業の欠時数が多くなった生徒には校長との面談をする機会を設けている。通信制や定時制への転学が多くなっている。 【委員より】多く遅刻している生徒にはどのように指導しているのか。 【回答】早朝登校を実施している。早朝登校にも来ることができない生徒には、自分の生活を振り返り、どこに遅刻の原因があるのかを考えさせている。 【校長より】学校保健委員会にて本校生徒の実態アンケートを実施した。それによると睡眠時間が4～6時間の生徒が4割ほど、そしてスマートフォンの使用時間が一日5時間という生徒が一定数いる。これでは生活の改善が必須と思われる。また、本校として取り組まなければならないことは「魅力ある授業」が実施できていければ、生徒が授業に興味をもって来るのではないかと。そのような目標をもって取り組んでいきたい。中学校では、授業力向上に関しての取り組みはどうされているか。 【委員より】学力向上委員会があり、校長先生をはじめ、たくさんの先生方がグループを作る等して授業を自由にいつでも見学できる文化がある。 ◆ 第3回：2月7日 ・協議① 令和6年度学校経営計画の達成状況について ・協議② 令和7年度 学校経営計画（案）について ・協議③ 令和6年度 第2回授業アンケートについて ・協議④ 令和6年度 学校教育自己診断について 【委員より】1人1台端末の使用率をどのようにして伸ばしたのか。 【回答】1年では情報の授業を行うので数値が高い。家庭での学習支援クラウドサービスなどで行っている。推進することでまた数値も上がってくるのではないかと。 【校長より】学校教育自己診断について、今後もブログの更新に力をいれる。就職強い吹田高校であるが、離職率を調査する必要性を感じている。その前段階として、学校斡旋の見直しを図りたいと思っている。就職希望の生徒の指導に学校全体としてあたっていきたい。また、授業力向上の意識を全教職員と共有してすすめていく。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
-------	----------	-------------	-------------	------

府立吹田高等学校

1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	（１） 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐむ	ア、生活指導の基本方針を生徒および保護者に周知し、遅刻に対する意識の向上をめざす。 イ、生徒、保護者への連絡を密に行い、連携強化をはかるとともに、身だしなみ指導の徹底をめざす。 ウ、登下校指導を通し、生徒の交通マナーに関する意識を高める。 エ、授業マナー（ベル着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源 OFF 等）について、生徒への働きかけを継続する。 オ、情報モラルを身に付けられるよう、学年、教科横断的に連携し学習を実施する。	ア、総遅刻数 2 %減 [新規、5645 回] イ、保護者向け学校教育自己診断「学校の頭髪指導について理解できる」の肯定率 90%以上をめざす。[新規、88. 5%] ウ、生徒向け学校教育自己診断「あなたは登下校時に、交通ルール・マナーを守るように努めていますか」の肯定率 90%以上を維持する。[97. 3%] エ、生徒向け学校教育自己診断「先生は、生徒の授業中の私語や勝手な行動を見逃さずに注意していると思いますか」の肯定率 85%以上をめざす。[84. 8%] オ、生徒向け学校教育自己診断「あなたは授業や LHR、講演会などの機会を通して情報モラル等を身につけることができますか」の肯定率 90%以上を維持する。[92. 9%]	ア、遅刻数 6286 回、目標値を下回った。時間を守ることの大切さを引き続き指導していくが、次年度も工夫を重ねていく。【△】 イ、肯定率は 86. 1%で目標値に達することができなかった。頭髪指導に関わる校則の点検を実施するとともに、保護者との連絡を密にするよう努める。【△】 ウ、肯定率は 97. 7%で目標を達成することができた。「生徒の命を守る通学安全指導」を引き続き掲げ、日ごろの指導と登下校の見守りを継続する。【◎】 エ、肯定率は 85. 4%で目標を達成している。吹田スタンダードを活用しながら全教職員で今後もより組んでいきたい。【◎】 オ、肯定率は 92. 0%で目標を達成している。1 年では入学してすぐにスマホ講習会を実施し、また情報の授業だけではなく、様々な機会 で情報モラルについての指導を行っている【◎】
	（２） 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐむ	ア、生徒会執行部を中心に、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行い、それを実現できる校内体制を引き続き継続する。 イ、部活動の活性化を図るため、新入生が入部しやすいように仮入部期間の設定するなど、運営・指導体制を充実させる。 ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と迅速な対応を行う。また、人権 HR 計画の更なる充実と円滑な実施を行う。	ア、・生徒向け学校教育自己診断「あなたは遠足、体育祭、文化祭などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか」の肯定率90%以上を維持する。[93. 5%] ・教員向け学校教育自己診断「文化祭・体育祭などの学校行事において、学年や学校全体で組織的に取り組む体制がある」の肯定率 80%以上をめざす。[72. 2%] イ、生徒向け学校教育自己診断「学校の部活動は活発だと思いますか」の肯定率を75%以上をめざす。[72. 1%] ウ、生徒向け学校教育自己診断「学校は「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応していると思いますか」の肯定率 80%以上を維持する。[82. 9%]	ア、・生徒向け肯定率は 90. 2%で数値は達成している。学校として行事に力を入れている成果と捉えている。【○】 ・教員向け肯定率は 71. 8%で目標の数値に届かず。学校行事において役割分担が不十分であることに課題が残った。今後、話し合いや検討を重ね、改善に努めたい。【△】 イ、肯定率は 74. 7%で目標の数値に届かず。クラブ体験の内容や部活動の在り方について検討し、改善に努めたい。【△】 ウ、肯定率は 79. 9%でほぼ数値は達成している。突発的な事案に対しても丁寧に対応できている成果と捉えている。3 回のいじめアンケートの結果を受け、人権担当および学年による丁寧な聞き取りを行っている。このことが生徒の共感と理解につながっていると思われる。【○】
	（３） 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐむ	ア、進路指導計画をもとに、進路ガイダンスを実施し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組めるよう進路指導を行う。 イ、進路多様校として、保護者に進路スケジュールなどの情報提供をし、共有する。 ウ、就職に強い吹田高校として、きめ細やかな就職指導を実践する。	ア、生徒向け学校教育自己診断「学校が提供している進路に関する情報や進路HR は、あなたが将来の進路を考えるうえで役立っていると思いますか」の肯定率 90%以上を維持する。[90. 9%] イ、保護者向け学校教育自己診断「学校では、子どもの進路実現に役立つ情報提供が適切に行われている」の肯定率 85%以上をめざす。[新規、84. 8%] ウ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率 100%を維持する。[100%]	ア、肯定率は 92. 7%で目標を達成している。引き続き、生徒のニーズを考え、内容を精査して情報提供・進路 HR を行う。【◎】 イ、肯定率は 86. 1%で目標を達成している。引き続き、メルマガ等で、保護者に丁寧な情報提供を行う。【◎】 ウ、今年度も 100%を維持することができた。丁寧で粘り強い指導を継続し、次年度にも生かしていきたい。【◎】

府立吹田高等学校

2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成	(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す	ア、進路指導部、学年が連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進める。 イ、教員が授業アンケート結果を各教科や組織で自己分析し、組織的な授業力向上の取り組みを実施する。 ウ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒1人1台端末等ICTを活用した授業等の取組みを一層進め、研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。	ア、保護者向け学校教育自己診断「学校では子どもの学力向上のための講習・補習などが適切に行われている」の肯定率を80%以上をめざす。[78.3%] イ、・教員間の相互授業見学週間を年2回実施する。[新規] ・教職員向け学校教育自己診断「自分は他の先生の授業を見学・参考にし、授業改善に役立っている」の肯定率60%以上をめざす。[新規、47.2%] ウ、・1人1台端末を活用した授業を展開し、端末を利用している教員を全体の80%以上とする。[新規] ・電子黒板やICTのより良い活用のための教員向け研修年2回以上実施[新規]	ア、肯定率は72.1%で目標の数値に届かず。講習・補習の実施や学力向上のためのわかる授業の実践に力を入れていきたい。【△】 イ、・年2回実施することができた。次年度以降も継続し、授業力向上のため週間を設定するだけでなく、内容もアップデートしていきたい。【◎】 ・肯定率は76.9%で大幅に肯定率が上がった。これは初任者や10年経験者研修の研究授業の機会があったことも関わっていると思われる。次年度も継続して授業力向上の機会を定着させていきたい。【◎】 ウ、・端末を授業等で使用している教員はほぼ100%である。【◎】 ・年度初め及び年度末に計2回実施した。【◎】
	(2) 生徒の力を育成する、様々な取組みの充実	ア、各教科や総合的な探究の時間の内容を精選し、魅力ある授業を展開し生徒の理解度を高める。 イ、大学や地域機関との連携を継続し、学校全体の教育力を更に向上させる。 ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。	ア、生徒向け学校教育自己診断「あなたは授業中に私語や勝手な行動をすることなく集中して学習していますか」の肯定率を90%以上を維持する。[90.5%] イ、高大連携講座を年間5回以上開催する[新規] ウ、教員向け学校教育自己診断「生徒の進路希望の実現に向け3年間の展望をもった指導となっている」の肯定率80%以上をめざす。[新規、75.0%]	ア、肯定率は90.8%であり、吹田スタンダードの定着ができつつあることと思われる。今後も授業規律を大切にする学校でありたいと思う。【○】 イ、2年進学クラスの高大連携講座、看護医療プログラム・保育プログラムの大学、短大、専門学校との連携授業を年間10回実施した。【◎】 ウ、肯定率は87.2%で目標を達成している。引き続き、3年間のスパンでの生徒の成長を考えた進路指導を行っていく。【◎】
3 心身ともに健康であり続ける力の育成	(1) 心身ともに健康であり続ける力を育てる	ア、生徒情報会議（みかん会議）等で課題のある生徒について情報共有し、早期対応に取り組む。 イ、日常の校内清掃活動の充実および校内美化の推進する。 ウ、安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。	ア、保護者向け学校教育自己診断「生徒が保健室や生徒相談室などで気軽に教員に悩みを相談できる」の肯定率を80%以上にする。[78.4%] イ、保護者向け学校教育自己診断「校内は、清掃が行き届いている」の肯定率を70%以上にする。[66.4%] ウ、教員向け学校教育自己診断「自分は、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、日常的に危機管理を意識した業務遂行している」の肯定率を90%以上をめざす。[新規、88.9%]	ア、肯定率は69.7%と低下した。SCおよびSSCとも連携しながら教育相談をより多角的に充実させる必要がある。【△】 イ、肯定率は64.5%で目標値には届かず。施設の老朽化とは別に清掃の行き届いていない箇所について精査し、チェック表の活用など検討していきたい。【△】 ウ、肯定率は89.7%で目標値には届かず。南海トラフ地震を想定した組織的な対応ができるように年間の回数を増やすなどして危機管理の意識を高めていきたい。【○】
4 校内組織・教職員集団づくり、	(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり	ア、チームで生徒と向き合う組織づくりのため、初任期からミドル・リーダー、次世代の管理職まで系統的な育成を図る。 イ、吹田高校教職員が一体感をもって職務を遂行する。	ア、教員向け学校教育自己診断「学校経営・学校運営に関して、必要な研修が行われている」の肯定率60%以上をめざす。[新規、52.8%] イ、教員向け学校教育自己診断「部会や教科会・担任会等の意見も踏まえた、運営委員会による意思決定の過程が定着している」の肯定率80%以上をめざす。[新規、75.0%]	ア、肯定率は74.4%で目標は達成している。日々の教育活動に直結している生徒指導に関わる教員研修や人権関係、情報関係等の研修によるものと思われる。【◎】 イ、肯定率は76.9%で数値には届かず。ミドルアップダウンの意思疎通を次年度以降は重視して学校運営に取り組みたい。【△】

府立吹田高等学校

	(2) 校務の効率化と働き方改革	ア、会議のペーパーレス化を進めるなどして校務のさらなる効率化をめざす。 イ、働き方改革について。	ア、教員向け学校教育自己診断「校内メール等の利用で校務の効率化が図られている」の肯定率80%以上をめざす。[69.4%] イ、毎週水曜日を一斉退庁日とし、時間外勤務について月 80 時間を年間3回以上超える教職員を 10 人以下とする[新規]	ア、肯定率は 90.0%で大幅に肯定率が上がった。本校の校内メール等は定着しており、本来の数値が結果として出たものと思われる。【◎】 イ、6名ではあるが、各々の時間外在校時間数が多いのが今後の課題である。毎週水曜日は、放送と職員室に掲示を行い一斉退庁を促した。【○】
	(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	ア、地域住民やPTA 等の保護者との連携を強化する。 イ、広報活動の充実やホームページ等の情報発信機会の拡大。	ア、保護者向け学校教育自己診断「学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定率を 80% 以上をめざす。 [72.6%] イ・学校説明会を年4回開催し、中学生、保護者、中学校教員含め合計 1000 人の参加をめざす。[新規、745 人] ・中学校進路指導主事や塾経営者への学校案内および説明会を年 5 回以上実施する。[新規]	ア、肯定率は 74.2%で目標の数値に届かず。他校の事例なども参考にしながら SNS を効果的に取り入れられる等検討していきたい。【△】 イ、・学校説明会の参加者は全4回合わせて 660 人となった。目標値を下回ったが、多くの方に来ていただけた。【△】 ・説明会に準ずるものを含めると 7 回実施している。塾訪問は、入学者が通塾していた塾を中心に、100 件以上訪問を行った。本校にとって広報はとても大切であり、次年度以降も継続していきたい。【◎】